

(様式4)
令和4年12月1日

令和4年度 第2回 大阪市立墨江丘中学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立墨江丘中学校
校園長名 林 憲治郎

日 時	令和4年12月1日 (木)		
場 所	大阪市立墨江丘中学校		
出席者	委員など	村田 望(会長) 吉野徳一郎(委員)欠席	西田 麻希(副会長) 中谷 亨(委員)
	校園	林 憲治郎(校長)	橋口 徳治(教頭) 島谷 裕美子(学校元気アップ地域本部)
	区役所	住吉区役所 教育文化課 担当係長	山本竜司
議題	(1) 学校協議会委員について コロナ禍で数年ぶりの開催 (各委員より自己紹介) (2) 学校評価について (中間評価について) (3) 元気アップ事業について (4) その他 コロナ禍の学校行事等の在り方		
協議要旨	協議の結果		意見の概要
	(1)	○各委員より自己紹介 地域の声、保護者の声を学校運営に届けられるようにすることを委員で確認。	○各委員より自己紹介
	(2)	○学校長より、教育振興計画をもとに3本の柱について説明。 「運営に関する計画」中間評価について、○学校元気アップ事業の内容と周知方法について、会長より質問があった。	○元気アップコーディネーターより説明。 学校と地域を結ぶものであり、図書のボランティアや勉強会、絵本の読み聞かせなど取り組みを説明し、ボランティアということで様々な地域の方に協力してもらっているが、このボランティアを今後有償でできないか検討して欲しいと意見があった。区役所も、教育委員会へも何かできないか働きかけをしていきたことを伝えた。
	(3)	○自己肯定感やいじめアンケートのやり方について、子どもたちはアンケートだけでは伝えられない、数値に出ていないことについて何か対処方法をやっているのかの質問が倉郷委員よりあった。	○アンケートに子どもたちや大人の意見をそのまま記載している。様々な思いはあるが、アンケート収受の際には集会等でアンケートなどを、登下校で一人でいる、休み時間の様子、保健室などの頻度、出席、欠席など様々観点で確認できる仕組みをとっているが、実際にはまだまだアンケートだけでは現状を伝える、伝わるのは難しいところはある。

	<p>いじめ事案についても、様々な捉え方がある。子どもの中でももちろん、大人の保護者間でも、重大事案とまでは今までならならなかつたケースも、双方の価値観の違い片方は「友達との人間関係トラブル」←これも経験であり教材であると考える一方、少し肩が当たった、友だちに1度、心無いことを言われた。これはいじめではないか?となるケースが増えている。</p> <p>もちろん重大事案に発展していくのは人が気付き、関わることを前提で、大人の理論だけではなく、子どもにも様々な考え方をもたせるためには必要なこともあることを集会等で伝えたいと回答した。</p> <p>○部活動の地域以降について</p> <p>○各学校行事について コロナ禍の学校行事の在り方について、感染対策を徹底した上で来賓等も、様々な来賓席等の準備は無しで観に来ていたく体制をとれないかという意見があった。</p> <p>○今後の部活動の地域以降についての情報交換を行った。場所を提供しての夜の塾、ダンスなど今後場所を提供しての民間を活用しながらの子どもたちの居場所を考えていくことが重要になることを意見交換を行った。</p> <p>○来賓席という形ではなく、保護者席の中に入る形で地域の方が学校様子なども見れるように学校行事の案内をしていきたいことを確認した。</p>
協議資料	<p>1. 「大阪市立墨江丘中学校 学校協議会について」 2. 「大阪市立墨江丘中学校 学校運営に関する計画・中間評価アンケート」 3. 「令和4年度 年間行事予定」 4. 令和4年度 元気アップ資料</p>
	傍聴者 なし